

日本労働年鑑 第59集 1989年版

The Labour Year Book of Japan 1989

第三部 労働組合の組織と運動

VI 国際労働組合運動

概況

☆八八年には、鉄道労連と鉄産総連がITFに、国公労協がPSIIに、日放労がIFTにそれぞれ新たに加盟した。

☆オタワ・サミットに向けての労働サミットが、五月に開催された。

☆FIETIは、加盟組織から、海外で営業している日本の銀行が労働組合権を尊重しないなどの苦情申立てを受け、日本の労使関係政策についての調査を開始した。

☆国際自由労連・国際産業別組織系の会議として注目されるのは、つぎのとおりである。国際自由労連(ICFTU)関係では、第一四回世界大会(三月)、APRO第一四回大会(八月)が開催された。ITS関係では、国際繊維皮革労組同盟(ITGLWF)第五回大会(九月)、IMF関係では、ホワイトカラー労働者会議(十一月)、松下世界協議会(十一月)、PTTIでは第一〇回アジア太平洋地域大会(十一月)、ICEF世界大会(一二月)、IGF第一四回総会(一〇月)、ISETU—FIET第七回大会(一〇月)、IFJ第一九回大会などであった。

☆世界労連系の国際労働組合会議としては、世界労連の第三九回執行局会議(三月)、第四一回総評議会(一〇月)、産業別労働組合インター関係では、公務員インター第八回大会(三月)などが開催された。

☆OECD・TUACは四月に総会を開催し、オタワ・サミットに反映させる声明を発表した。また、CGILの加盟問題については結論を持ちこした。

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)